

令和2年度 学校評価 自己評価

評価基準 4: 適切 3: ほぼ適切 2: やや不適切 1: 不適切

I. 教育理念・目標

評価項目	評価
1. 理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特徴が明確になっているか）	3.6
2. 学校における職業教育の特色は何か	
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	
4. 学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	
5. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	

II 学校運営

評価項目	評価
1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.5
2. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	
3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	
4. 人事・給与に関する制度は整備されているか	
5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	
7. 教育活動等に関する情報公開が適正にされているか	
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	

III 教育活動

評価項目	評価
1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.4
2. 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	

評価項目	評価
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.4
6. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	
8. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	
9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	
10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	
13. 関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	
14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	
15. 教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)しているか	
16. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか	

IV 学修成果

評価項目	評価
1. 就職率の向上が図られているか	3.2
2. 資格取得率の向上が図られているか	
3. 退学率の低減が図られているか	
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	

V 学生支援

評価項目	評価
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.3
2. 学生相談に関する体制は整備されているか	

評価項目	評価
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.3
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	
6. 学生の生活環境の支援は行われているか	
7. 保護者と適切に連携しているか	
8. 卒業生への支援体制はあるか	
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	
10. 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	

VI 教育環境

評価項目	評価
1. 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.0
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	
3. 防災に対する体制は整備されているか	

VII 学生の受け入れ募集

評価項目	評価
1. 学生募集活動は、適正に行われているか	3.7
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	
3. 学納金は妥当なものとなっているか	

VIII 財務

評価項目	評価
1. 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	3.5
2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	
3. 財政について会計監査が適正に行われているか	3.5
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	

IX 法令等の遵守

評価項目	評価
1. 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.6
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	
4. 自己評価結果を公開しているか	
5. 学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか	

X 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.0
2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	
3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	

令和2年度 国立療養所多磨全生園附属看護学校 学校評価

学校関係者評価委員会による評価

1. 日 時：令和3年3月5日（金）16：00
2. 場 所：本館2階第2会議室
3. 出席者：評価委員：4名
学校職員：11名
欠席者：評価委員：2名
司 会：評価委員長 書 記：教官

4. 評価内容

令和2年度看護学校運営についての評価

1) 令和2年度自己点検・自己評価結果について

「学生の受け入れ、募集について」の改善策ではNC/NHOの診療看護師、認定看護師だけでなく、全生園の認定看護師も活用して欲しい。地域貢献でも協力できる。卒業時満足度調査結果の評価が高い項目は、受験生へのアピールポイントになる。現在、看護師長間で全生園の看護の特徴を話し合っているため、教官も参加して学校の特色を考えてはどうか。

卒業時満足度調査の自由回答を見て、臨地実習は学生に寄り添った指導ができていたようで安心した。今後も協力して学習効果が上がる実習指導を行っていきたい。

2) 卒業時のカリキュラムに関する満足度調査結果について

全ての評価項目が昨年度より上昇しており、満足度が高まるよう教育環境の改善に取り組まれていると考える。「授業中苦痛を感じた」「コロナの影響で十分に学生の意見を聞く機会が減少」と回答している学生にも個別に適切に対応され問題解決されている。オンライン授業もスムーズに実施できており、家庭をもつ学生には学びやすい環境となっている。

3) 総評

母体施設と協力しよい学習環境をつくっている。学校と看護部が協働して「ハンセン病療養所入所者の看護」の言語化を進め、全生園の看護の特色、附属看護学校の教育の特色を明確にしていければよい。

学生の意見をよく聞き、「わかりやすい授業が多い」の点数が上昇するよう努めて欲しい。現在、NC/NHOの協力を得て診療看護師や認定看護師による講師の確保に努めていることは評価できる。

4) 課題

- (1) 学校は学生中心である。学生の要望をよく聞いて運営していく。
- (2) 学生生活を実りあるものとするために教官の教育力向上を図る。学生の看護実践力の向上には教育力の向上が必須である。教官は自己学習、様々な研修を受け自己研

鑽に努める。

- (3) 令和5年に新カリキュラムとなる。外部評価を年に1回は受け、教育の質の向上に努め教育体制の整備をはかる。